

2026年度 国税専門官／労働基準監督官／財務専門官 本試験（基礎能力試験） 講評

No.	科目	出題内容	正解	正答率※	講評
1	文章理解 (現代文)	内容合致	3	A	【文章理解（現代文）】 例年どおり、内容把握4題、空欄補充1題、文章整序1題、計6題の出題であった。成績診断結果を見るかぎり、内容把握ではNo.2の正答率が相対的に低い。たしかに、正答肢3のキーワード：「アンシアン・レジーム」について説明しているところのみを参照して判断すると誤りかねない。しかし、本文の文脈を辿ることができていれば難なく正答できる問題であった。少なくとも、6題中5題は正答したいレベルである。 【文章理解（英文）】 昨年は出題されていなかった文章整序が出題され、その分内容把握の出題が1題減った。内容把握2題、文章整序1題、空欄補充1題の出題で、No.7は難易度が低く、正答できた受験生も多かったと思われる。一方で、No.8とNo.9は紛らわしい誤肢が含まれており、成績診断における正答率は4割未満であった。No.8は「The slowdown」が指しているものが何か判断できるかどうかポイントであった。No.10は空欄補充の形式ではあるが、空欄に入る答えは要旨であり、本質的には要旨把握問題であった。
2		内容合致	3	A	
3		内容合致	1	A	
4		内容合致	5	A	
5		文章整序	1	A	
6		空欄補充	2	A	
7	文章理解 (英文)	内容合致	3	A	【判断推理／数的推理】 (判断推理) 出題数は例年どおり7題（No.11～17、No.17は計量以外の図形）であったものの、計量以外の図形が1題減少した。前半のNo.11～14は「Kマスター数的処理」の例題で出てきてもおかしくないような初歩的な問題である。一方、後半のNo.15～17は標準的な問題といつてよいだろう。No.15は、条件より「ステージ①で行うAのステージの時間帯」としてあり得るケースが2つあるので、それぞれの場合で検討するとよい。No.16は、オセロのルールと同じである。No.17は、「Kマスター数的処理」の「03-03軌跡・移動」P259の内容を理解した上で、この問題の図形の全頂点のうち点Pの右隣の頂点が回転の中心にならないことがわかれば、正解肢を選ぶことができる。 (数的推理) 出題数は例年どおり4題（No.18～21、No.21は図形の計量）で、昨年度と比べ若干難しくなった印象である。No.18は、余事象「全て異なる文字となるケース」を利用することが可能で、複数個ある文字に着目し、AとMを含まない、Aを1個含む、Mを1個含む、AとMを1個ずつ含む、の4ケースで場合分けするとよい。No.20は、「Kマスター数的処理」の「02-09その他の文章題」例題1や「過去問解きまくり！①『数的推理・資料解釈』」問題103の類似問題で、点取り問題である。No.21は、図形は異なるものの、「Kマスター数的処理」の「03-05図形の計量」例題1と同様に、縮尺の同じ図形が連なっている設定である。隣接している六角形の1組の相似比が1つわかれば、全六角形の相似比および面積比もわかる。図形の計量問題は差がつきやすい傾向があるので、LEC生はしっかり得点してほしい。 【資料解釈】 出題数は例年どおり3題（No.22～24）であったが、図表が複数ある問題が昨年度より1題増加した。No.22は、最初に比較的手間がかからない後半の選択肢（選択肢4、5）から検討するかしないかで、残り時間における余裕も大きく変わってくるだろう。毎年恒例の「独特な図表の問題」として出題されたものと思われるが、正解肢がグラフをみて判断できるものなので、確実に正解してほしいところだ。No.24は、表1の「全国のりんごの結果樹面積及び収穫量」が、表2の「A、B、Cの3地域の結果樹面積及び収穫量」の合計と一致していない点に注意しよう。表1の値は、表2に出てきていない地域の値も合計されており、この点を見逃してしまうと誤答につながる。特に、選択肢3（誤答）には注意していただきたい。 【時事】 時事の各選択肢は「時事の話題＋自然科学・人文科学・社会科学の基礎知識」という形式をとっているため、それぞれに関連した話題や基礎知識を丁寧に押さえることが重要である。そのことを踏まえた上で、No.25「生物や自然現象」は、自然科学の話題や基礎知識があれば正解肢を選択肢できる内容である。No.26「芸術・文化」は、人文科学の話題や基礎知識があれば容易に正答できたであろう。No.27～28の2問は、国家専門職試験では頻出の「我が国」が問われた。No.27「我が国の行政」は、社会科学・人文科学の話題や基礎知識があれば平易な問題といえる。No.28「我が国のこども・子育てなど」は、公務員志望者にとって少子化は一般常識であり、いずれの選択肢も大きく報道された出来事なので、その確認が出来ていれば正解肢を選択肢できるだろう。No.29「国際機関」も、社会科学の基礎知識があれば正解肢を選択肢できる内容である。 【情報】 出題数は例年どおり1題（No.30）であった。昨年度は「高度情報化社会に関する用語」の記述正誤問題が出題され、一昨年度と問題の形式が異なっていたが、今回は「フローチャート」の問題が出題され、2年ぶりに計算や思考を伴う問題となった。「Kマスター情報」の「02情報の処理」例題2と同じく、文字に数値を代入し、ループ処理で文字の値を変化させ、ループ処理後に出力するといった流れであった。例題2と比べると、分岐や未知数が少なかった分、取り組みやすいと感じた受験生は多かったのではないだろうか。
8		内容合致	4	B	
9		文章整序	2	C	
10		空欄補充	2	C	
11		論理（論理式）	5	A	
12	判断推理／ 数的推理	集合算	4	A	
13		位置関係	3	A	
14		対応関係	4	A	
15		対応関係	1	C	
16		操作手順	1	B	
17		軌跡	5	A	
18		確率	4	C	
19		整数	2	B	
20		仕事算	4	A	
21		平面図形の計量	3	B	
22		グラフ（実数）	5	C	
23		グラフ・表（実数・指数）	3	A	
24		表（実数）	4	B	
25		時事	生物や自然現象の動向	2	A
26	芸術・文化の動向		1	C	
27	我が国の行政の動向		5	A	
28	我が国のこども、子育て		2	C	
29	国際機関の動向		5	C	
30	情報	フローチャート	1	A	

※ 正答率（A：60%以上、B：40%以上60%未満、C：40%未満）は、LEC公務員試験 受験生応援企画『本試験無料成績診断』の国税専門官のデータ（5/28時点）に基づいて算出しています。本成績診断のご利用方法等の詳細は、LEC公務員Webサイトの専用ページ（<https://www.lec-jp.com/koumuin/juken/seiseki/>）にてご案内しています。



KL25666